

高梁川流域 キッズ

たかはしがわりゆういき

高梁川流域の

でんとうてき

ぎょうじ

げいのう

伝統的な行事と芸能



かんけい ばしょ
関係のある場所

こりゅうそんりゅういん
・五流尊瀧院

こりゅうそんりゅういんのさいとうごま

五流尊瀧院の採燈護摩

新高総早
見梁社島
市市市町

倉敷市

矢井浅里笠
掛原口庄岡
町市市町市



ぎょうじ

この行事について

こりゅうそんりゅういん さいとう おおごま まいとし きゅうしょうがつ にちよる にちそうちよう おこな ひ
「五流尊瀧院の採燈大護摩」は、毎年、旧正月23日夜から24日早朝にかけて行われるお日
まちさい しんれき がつ にち にち だいこんげんたいさい おこな さいとう おおごま ごま
待祭と新暦10月4日から5日にかけての大権現大祭で行われます。「採燈大護摩」とは、護摩
だい ちよつげいやく なが まつ まる た ほん いげたく なか きつ
台(直径約10cmの長さ1.5m～2mの松の丸太を16本を井桁に組み、その中に木を詰め、
ひのき は かぶ やく しほう たか やく なまき やま つく ごまぎ や ひ た ほとけ
檜の葉を被せた約2.5m四方、高さ約3mの生木の山)を作り、護摩木を焼き、火を焚いて仏を
まね ほとけ ねがいごと たつせい きがん
招いて、その仏に願事の達成を祈願するものです。

ぜんこく あつ おおせい やまぶし おこな さいとう おおごま けっかい ぎしき とくしよく
全国から集まった大勢の山伏たちによって行われる「採燈大護摩」は、結界儀式に特色があり
ます。まず、法螺の合図で山伏たちが入場したあと、東西南北中央及び鬼門の悪魔を弓矢で射落
す法弓の儀式があり、次いで法剣、そして斧によって護摩壇のまわりの悪魔が切られ清められ
ると伝えられています。「採燈大護摩」は、一般信者にとっては山での厳しい修行を積んだ山伏
ひ た ほとけ まね じぶん ねがいごと たつせい いっしょ いの しんこう
に火を焚いて、仏を招いてもらい、自分たちの願事の達成を一緒に祈ってもらうという信仰に
ささ
支えられています。

も ごま ひ りやく しん さいとう おおごま ひ いくえ と
燃えさかる護摩の火にはご利益があると信じられており、「採燈大護摩」の火を幾重にも取り
かこ しんじゃ ひ て て からだ かくしよ あ まも ふだ ひ
囲んだ信者たちは、火を手にかざし、その手を体の各所に当てます。また、守り札を火であぶり、
しんじゃ くぼ
それらを信者に配ります。